

編集後記

先日、NHKの7時のニュースで、ITERのEDAの設計がまとまったことと、ITERの日本誘致については賛否両論あることが流されていた。出だしは核融合の実現は地上に太陽を作ることの説明で始まったが、最終的には、大型の核融合装置の建設を推進することについては、多額の国家予算を必要とするため、多くの国民の理解を得た上で進める必要があると結んでいた。学生時代にプラズマ物理学を学び、現在、核融合実験装置の設計に携わっている身であるがゆえ、将来、自己点火プラズマを目の当たりにすれば、幼い頃、人類が月に降り立ったとき抱いたのと同じ様な感動を抱けると思うが、核融合開発に直接関係していない一般の多くの国民が同様な感動を味わえるとは現状思えない。それゆえ、自己点火プラズマが実現したことに感動するような国民を一人でも多く増やすこと、すなわち、核融合の科学的な側面について一般の人に興味をもってもらうことが、国民の理解

を得る一つの方法と考える。しかしながら、近年の一般向けの書籍やTV番組等にて、核融合を扱ったものは極めて少ない。一般の人からは縁遠いと思われる数学の分野においてさえ、教養書としてフェルマーの定理を扱ったものが何冊か出版されており、触れている内容はかなり専門的にもかかわらず、問題が解決されてゆく過程が素人でも面白く、その問題の奥深さを垣間見ることができる。核融合研究の発展の歴史も山あり谷ありであり、最近の計測技術およびシミュレーション物理の進展のお陰で核融合プラズマの物理現象もかなり解明されてきたはずであるから、才能あるライターに核融合プラズマの物理に関する同様な本を執筆、出版していただきたいと思うのは私だけであろうか。なお、ここで述べたことはすべて私見であり、私にはライターの方に協力する余裕も能力もなく、かつ編集委員会でこのような議論がなされているわけでもないことを付記する。

(長谷川 満)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	井上 信幸	副 会 長	伊藤 智之 佐藤 徳芳	常務理事	上村 欽雄(総務委員長)
理 事	安積 正史(プログラム委員長) 河合 良信(出版委員長) 永見 正幸(広告委員長) 松井 秀樹	井岡 茂 香山 晃 西原 功修 矢部 孝	岡崎 隆司(財務委員長) 田辺 哲朗 日野 友明(企画委員長)	小川 雄一(編集委員長) 長 照二 藤原 正巳	
監 事	西田 靖	山中 芳宣			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 小川雄一(東大高温プラ)

エディター 岡本正雄(核融合研), 菅井秀郎(名大), 関子秀樹(九大応力研), 関 昌弘(原研), 田中雅慶(核融合研), 西村博明(阪大レーザー研)

編集委員 赤石憲也(核融合研), 沖野晃俊(東工大), 小椋一夫(新潟大), 河内哲哉(原研), 久保 伸(核融合研), 後藤純孝(日立), 齊藤輝雄(筑波大), 坂本瑞樹(九大応力研), 佐藤徳芳, 新谷吉郎(東芝), 高橋 努(日大), 高畑一也(核融合研), 高部英明(阪大レーザー), 田中謙治(核融合研), 田辺哲朗(名大), 津島 晴(横浜国大), 樋田美栄子(名大理), 藤堂 泰(核融合研), 中村圭二(中部大工), 長谷川 満(三菱), 濱松清隆(原研), 福本直之(姫路工大), 政宗貞男(京都工織), 松井秀樹(東北大), 松嶋 功(産総研), 水内 亨(京大エネ研), 村上 泉(核融合研), 矢部 孝(東工大), 吉村信次(核融合研)

プラズマ・核融合学会誌第77巻第9号

編集・発行

〒460-0003 名古屋市中区錦2丁目20-20 7階
社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会
Tel. 052-231-4535 Fax. 052-231-7557

印刷 株式会社荒川印刷
2001年(平成13年)9月25日

E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: http://jspf.nifs.ac.jp/ 定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1火曜日に開かれています。但し、第1火曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の火曜日に開かれます。

速い！目立つ！簡単！

学会誌に **Rapid Communications** を新設

現在プラズマ・核融合学会誌には査読論文として「研究論文」、「レター論文」、「レビュー論文」の3分類がありますが、これに加えて「Rapid Communications」を新設しました。その特長は、

1. **速い!** 投稿から出版まで最速 30 日。Web には最短 1 2 日で速報。

2. **目立つ!** 注目度抜群の号頭掲載。

3. **簡単!** カメラレディー原稿の一発査読。たったの 2 ページ、結果だけまとめてすぐ完成。あなたのデスクトップからクリック、即オンライン投稿完了。

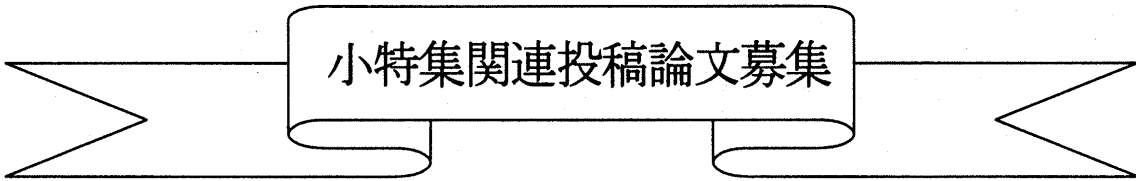
ネタはなんでも。何しろ前例のない新しいジャンルですから「できた!」「動いた!」「写った!」「とれた!」「走った!」「わかった!」「合った!」「解けた!」「見つけた!」から「こんなのだお?」まで、とにかくチャレンジ、思い立ったらすぐ投稿。あとでじっくり考えてから研究論文に再投稿できます。

—投稿規定より抜粋—

Rapid Communications は、プラズマならびに核融合に関する上記の分野でのインパクトのある最新の研究報告を先取りし、迅速に掲載することを目的とする。当該研究分野へのインパクトのある研究報告であれば、必ずしも議論が完結している必要はない。原則として一回の査読のみで掲載可否の判定を行う。著者は所定の文章体裁に従った原稿を投稿し、受理後には所定の電子ファイル形式で原稿を提出しなければならない。受理された論文は最短の場合で投稿から 30 日で掲載されるとともに、本学会ウェブページにも最短の場合で投稿から 1 2 日で仮掲載される。ウェブページ上では動画を掲載することも可能である。用語は英語とする。長さは原則として刷り上がり 2 ページとし、投稿時に 2 ページを越えるものは受け付けない。著者が投稿後に発展させた同一課題の研究成果をまとめて本学会誌研究論文やその他の学術誌において改めて発表することを推奨する。

もう次の年会まで待つ必要はありません。結果が出たら即投稿。すぐ掲載だから予算申請にも効果的。プラズマ・核融合学会誌の「Rapid Communications」であなたの優先権を世界に主張しましょう。10月1日より投稿を受け付けます。

詳細は学会ウェブサイト (<http://jspf.nifs.ac.jp/>) をご覧ください。



小特集関連投稿論文募集

プラズマ・核融合学会誌編集委員会では、以下のテーマでの小特集を企画しています。つきましては、小特集のテーマに関連する一般投稿論文(研究論文, レター, レビュー論文, 研究開発ノート, 技術開発ニュース, 技術報告・技術資料)を募集いたします。この機会に、是非とも積極的な投稿をお願いいたします。なお、ご投稿にあたりまして、投稿論文が小特集関連論文であることを、投稿票に明示いただくようお願いいたします。ご不明な点に関しましては、下記学会事務局までお問い合わせください。

掲載予定号	テーマ	原稿締切
第78巻第2号	定常磁気核融合炉におけるプラズマ・壁相互作用	2001年9月30日
第78巻第3号	3次元配位によるプラズマ閉じ込め研究	2001年10月31日
以降決定次第、発表します。		

問合せ先：〒460-0003

名古屋市中区錦2-20-20-7F

プラズマ・核融合学会 事務局

Tel: 052-231-4535

Fax: 052-231-7557

E-mail: jspf@nifs.ac.jp

<http://jspf.nifs.ac.jp/>